

ふじのくに地球環境史ミュージアムでは、展示や教育プログラムの実施だけでなく、高い専門知識を有する研究員による、世界レベルの調査研究活動を行います。このコーナーでは、インタビューを通じて研究員の仕事や、その素顔を紹介していきます。



准教授

たかやま こうじ  
**高山 浩司**

1978年東京都生まれ。東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻で博士課程を修了した後、千葉大学・ウィーン大学・東京大学にて研究に従事。2015年4月に着任。専門は植物系統進化学。主に海流散布植物や島の固有種を対象に、種多様化機構の解明に取り組んでいる。

## 植物はじっと静かに、でも、強かに生きている。

Q.植物が専門である高山准教授ですが、植物学者の視点から見た静岡県の特徴を教えてください。

A.静岡県はとにかく環境の多様性が高い。全長500kmを超える海岸線から、富士山や南アルプスといった標高3000m超級の高山まであり、土壌や気温、降水量も場所によって異なっています。植物は自ら移動することができないので、その生育は根を下ろした環境に大きく作用されます。つまり、様々な環境がある静岡県では、それだけたくさんの種類の植物を見ることができる。植物の種類が多いということは、動物の生存にとっても重要です。

Q.高山准教授は県内だけでなく国内外へフィールド調査に向かっていますが、最近の印象深い調査についてお話しください。

A.昨年11月にアフリカ大陸北西の大西洋上にあるカナリア諸島に行ってきました。進行中の研究なので詳細は言えないのですが、マメ科植物とその根に共生する根粒菌の関係を調べてきました。調査中印象的だったのが、テネリフェ島のテイデ山の景色です。テイデ山はスペインの最高峰で、その高さは3718mと富士山とほぼ同じ。大陸からはるばる海を渡って生き延びた植物が、赤茶色の土壌に点在する姿を見て、植物の強かさを感じました。

Q.さて、昨年2016年はミュージアム開館の記念すべき年でした。個人的な思い出も含め、2016年を総括して一言。

A.2016年はミュージアムが開館して、初めてお客さんを迎えた年でした。やること全てが初めてづくしの怒濤の一年でした。今年はもう少し腰を据えて研究をしたいですね。でも実は開館準備の水面下で、研究設備・体制の準備も進めてきました。ミュージアムの展示部分が植物の地上部分だとしたら、研究は地下に伸びる根なのかも知れません。しっかりと地面に根を張り、研究成果という可憐な花を来館者の方に届けたいと思っています。

怒濤のような2016年、開館直前の展示製作追い込みやミュージアムサポーターの募集、中庭のピオトープ化などの博物館業務の傍ら、きちんと研究者としての業績も積上げている高山准教授。遠くない未来に、大輪の花を咲かせるのでしょうか。 次回は「地質博士」菅原准教授です。

### 2017年度ミュージアムサポーター募集

ミュージアムでは2017年4月から活動していただく、ミュージアムサポーターを募集します。詳しい募集内容は、今後ミュージアムホームページにて御案内します。またサポーター担当まで直接お問い合わせください。

#### 応募条件

- ◎15歳以上で、ミュージアムの活動に興味がある。
- ◎原則、月に2回以上のサポーター活動ができる。
- ◎研修会に参加できる。

#### 登録までの流れ

- 1 事前にミュージアムを見学する。
- 2 研修会受講
- 3 サポーター本登録
- 4 活動開始

#### 研修会

メール (info@fujimu100.jp) またはミュージアム1F受付にて事前申込をお願いします。いづれかの回に御参加ください。

[ 日程 ] 2/22(水)、2/25(土)、2/26(日) 各日とも10:00~12:00  
[ 会場 ] ふじのくに地球環境史ミュージアム3階視聴覚研修室

#### お問い合わせ

ふじのくに地球環境史ミュージアムサポーター担当  
[ TEL ] 054-260-7111 [ E-mail ] info@fujimu100.jp

### アクセス

〒422-8017 静岡県静岡市駿河区大谷5762(旧 静岡南高校)

🚗 自家用車でお越しの場合(ナビでお越しの際は、住所で検索してください。)

- ・ 東名高速道路静岡ICから15分
- ・ JR静岡駅から20分
- ・ 駐車場 無料(200台)

🚗 公共交通機関でお越しの場合

- ・ 静岡駅北口バスターミナル  
[8・B乗り場から美和大谷線「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行き(約30分)終点下車]

### ふじのくに地球環境史ミュージアム NEWS LETTER

発行：ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画総務課

[TEL] 054-260-7111 [FAX] 054-238-5870

[E-mail] info@fujimu100.jp

[ホームページ] www.fujimu100.jp

🐦 https://twitter.com/fujinokuni\_NEM

📘 https://www.facebook.com/fujinokuninaturemuseum



百年後の静岡が豊かであるために

# NEWS LETTER

ふじのくに  
地球環境史  
ミュージアム  
Museum of Natural and  
Environmental History, Shizuoka

## ふじのくに地球環境史ミュージアム ニュースレター

□ミュージアムをささえるもの □静岡のチョウ 世界のチョウ □ミュージアムダイアリー □研究員リレーインタビュー

[ vol.005 ]



散策路を分断していた崖を渡す丸太橋にて(12/23)

### ミュージアムをささえるもの

2016年12月19日(月)、ミュージアム関係者有志25名が集いネクスト・ミッションが始動しました。その名も「生物多様性の道(仮称)」整備プロジェクト。ミュージアムの前身の静岡南高校当時、敷地内の裏山には生物部や山岳部が利用する約400mの散策路がありました。しかし、閉校から約4年が経過し、階段を支える木が腐り、道の一部は崩落し、すっかり荒れ果ててしまいました。

2013年度末に策定したミュージアムの基本構想では、「屋外空間を活用し、ピオトープが昆虫の集まる樹木の植栽を行う」としていますが、そこに登場したのが、ミュージアム内で標本の整理保存業務を担っているNPO法人静岡県自然史博物館ネットワークでした。フィールドにおける調査を主要な活動とするNPOの皆さんのフットワークは軽く、静岡市林業研究会の協力のもと、2017年3月末の供用開始を目指して整備していこうと提案してきました。

そこで、山田和芳研究員がミュージアム関係者に広く呼びかけたところ、NPO職員はもちろん、ミュージアムサポーター(ボランティアスタッフ)、インタープリター(展示交流員)、サービススタッフ(委託スタッフ)及び県職員という、ミュージアム運営に携わるすべてのキャストの有志25人が、無償で集まってくれました。その中には、静岡南高校時代を知っている元先生、元生徒もいました。

ミュージアムをささえる人の力が、ミュージアムを次のステージに押し上げようとしています。

寒い冬を越え桜が開花する頃、眠っていた南高散策路改めミュージアム「生物多様性の道(仮称)」が開通する…かもしれません。

※完成した「生物多様性の道(仮称)」の利用については、利用者の安全を第一に考え、スタッフ引率など一定の制限を設けて運用していく予定です。